

新たな文化施設基本計画（素案）へのパブリック・コメント【回答】

今回お寄せいただいた貴重なご意見も踏まえ、今後、新たな文化施設の設計や管理運営計画の検討を行っていくこととしております。

NO.	意見の内容	長崎市の考え方
1	<p>小規模文化施設を作る事には賛同するが、わざわざ旧市役所を使う事ではないかなと感じる。 慢性的な駐車場不足の事も考えて市営駐車場の拡幅も1つの手ではないか？</p>	<p>新たな文化施設の建設場所については、当初、市庁舎跡地に整備する方針としていましたが、平成26年3月に県庁舎跡地活用検討懇話会の提言の中で、主要機能候補の1つとして「ホール機能」が掲げられたことから、県庁舎跡地での整備について県と協議を進めていたものです。その後、県が実施した埋蔵文化財調査により市がホール整備を予定していた場所などから江戸期の遺構等が確認されたため、市庁舎跡地よりも早期の完成を実現することが難しいと判断し、令和2年1月に市庁舎跡地に整備することとなったところで す。 なお、駐車場については、令和2年度の駐車場実態調査の結果、市内中心部のほとんどの地区において、駐車場は概ね充足しています。</p>
2	<p>音響性能の優れたホールにさせていただくために、内装には木材の使用をお願いします。 ヨーロッパには、木造のコンサートホールやオペラハウスが数多くあります。日本でも、山形県の南陽市民会館や長野県の多目的ホール「こだま」のような木造のコンサートホールが各地に建てられています。音楽を鑑賞するホールの天井や壁に木が多く用いられるのは、木材に音響的性質があるためで、人が音楽をより心地良く感じるためには木が欠かせないと思うのです。木と音の相性の良さは、音を和らげる性質や効率良く振動を伝える性質があると言われていました。 木材を見ていると、自然と気分がなごみますが、ホールのような大きな木質空間に囲まされると、音響的効果と視覚的効果が融合し、聴衆は日常生活の中では得られない気分の高揚を感じられるのではないのでしょうか。 使用する木材は、長崎市内のスギ、ヒノキを優先してください。 前述の南陽市民会館の基本理念は、「多様な交流を促す市民のための芸術文化の創造拠点」であり、長崎市の基本構想と合致するものではないのでしょうか。当市民会館の木造ホールは、有名アーティストから音響の良さに対する称賛があり、借受要望も多いそうです。また、木造ホールの光熱費は、RC造りと比較して約3,000万円の削減になるそうです。 木材は、森林が吸収した炭素を貯蔵しており、建築物等において利</p>	<p>木材の使用は地球環境保全等につながるとともに、劇場の内装への木材の使用についても、音響的な効果や視覚的な効果の面で有効とされていることから、新たな文化施設の計画においても、構造的な面での適合性や建設コスト面での経済性、遮音性能などの総合的な音響性能等を勘案し、具体的な木材の有効活用について文化振興審議会等の意見もお聴きしながら設計段階において検討することとしています。 なお、木材を使用する際には、「長崎市公共建築物等木材利用促進方針」に基づき、地域産木材の利用も併せて検討していくこととしています。</p>

	<p>用することは、都市の脱炭素化、カーボンニュートラルに貢献し、ひいては国内の林業や木材産業の活性化、さらにはSDGsのゴール15（森林の持続可能な管理）の達成に貢献します。</p>	
3	<p>ホールは850席でスペースを開ける工夫が必要。30年前の三和町のサンサンさんわフェスティバルでは、のど自慢などで600席が満員だった。高校演劇の聖地にするなど、印象が大切だと思う。冷たい感じではなく、アットホームなホールにしてほしい。リハーサル室には、きちんと調弦のしてあるピアノをおいてくれないと意味がない。完成するのを楽しみにしています。</p>	<p>新たな文化施設は、誰もが気軽に訪れることができ、芸術文化を通して様々な交流が生まれる場所となるよう検討を進めているところです。</p> <p>客席数についても、市内ホール全体の機能と規模のバランスを図り、稼働状況が平準化できるよう、また、どの席からも舞台が見えやすい満足度の高い鑑賞条件を備えたホールとするため1,000席程度とし、ゆとりのある客席寸法とすることとしています。</p> <p>なお、ホール利用に必要な備品については、常に適切な状態で使用できるよう管理を行うこととしています。</p>
4	<p>素案を読んで疑問点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このホールはいつ完成（開業）予定なのか？この素案だけではわからない。 ・上記に重ねて、これまでのスケジュールは書いてあるが、今後のスケジュール（いつ施行なのか、とかが不明。 ・ワークショップに参加したが、結局、ジャンルに振り切った（例えば音楽専門ホールなのか、舞踊専門ホールなのか）施設や舞台なのか、はたまた今まで多くの長崎のホールで失敗を重ねた「多目的ホール」なのかが、見えない。 	<p>新たな文化施設は、芸術性と専門性の高い公演に対応できるとともに、様々なジャンルにも対応できる十分な広さの舞台を設けるなど多様な演目が可能なホールを整備することとしています。</p> <p>また、新たな文化施設の建設については、基本計画や管理運営計画の策定、基本設計や実施設計、旧市庁舎本館の解体及び跡地の埋蔵文化財調査の後、新たな文化施設の建設工事に着手することとしています。</p> <p>なお、旧市庁舎本館の解体に1年程度、建設工事に2年程度を見込んだ場合、令和8年度中の完成を予定していましたが、旧市庁舎本館の解体期間が延びる見込みとなっています。</p>
5	<p>【客席の座席数について】</p> <p>素案では1,000席程度と記されていますが、先日の会議ではハッキリと「1,000席」と明言されました。それに異論は無いのですが、仮設のオーケストラピットを使用する場合、何十席か撤去せざるを得ません。オペラやミュージカルの公演の場合、座席を撤去しても最低1,000席は確保出来るようにしておかないと、興行収益が減少するのではないかと心配です。</p> <p>【花道（サイドステージ）について】</p> <p>当初は仮設の花道という話でしたが、常設の両花道を付けて頂けるようで、安心すると共に大変感謝しております。折角付けて頂けるのなら、より使い勝手のよいものになるよう、以下の意見を参考にして頂ければと思います。</p> <p>歌舞伎や日舞に限らず商業演劇でも、花道は頻りに利用されます。その場合、花道の七三（舞台から30%、鳥屋口から70%）の位置で立ち止まって演技する場合がありますが、大きくて長い小道具を振り回</p>	<p>新たな文化施設の客席数については、市内ホール全体の機能と規模のバランスを図り、稼働状況が平準化できるよう、また、どの席からも舞台が見えやすい満足度の高い鑑賞条件を備えたホールとするため1,000席程度としました。</p> <p>また、興行からの観点についても、文化振興審議会等の意見をお聴きしながら、1,000席程度でも可能と判断したところです。</p> <p>なお、新たな文化施設に整備する脇花道や迫りなど舞台構成の詳細については、今後、設計段階で検討することとしています。</p>

した為に、花道の壁を傷付けたり小道具を破損したりする事故を、何度か経験した事があります。それらの事故を防止する為には、七三の位置の壁を少し奥に膨らませる必要があります。花道を単なる通り道と考えず、舞台の一部と認識して設計して頂ければと思います。

また下手花道の七三には、「スッポン」と呼ばれている小迫りを是非設置して頂くようお願いいたします。妖怪変化の出没に使用すると演出効果が抜群で、日舞や歌舞伎ではかなり使用頻度が高く、設置費用はそれほど高価ではないと思いますので。

なお「鳥屋口」は、市民会館文化ホールのような常設の場合と、ブリックホールのような仮設の場合がありますが、花道から勢いよく走りこんだり、大勢の出演者が出入りする場合もあるので、常設にした上である程度の広さを確保して頂きたいのです。仮設の鳥屋口は見た目にも粗末で劇場の品格も落ちるうえ、鑑賞の妨げになる場合もあります。

【迫りについて】

「迫り」は演出上かかせない物で、単に奈落から出演者や大道具を迫り上げるだけでなく、舞台上から更に迫り上げて二重屋台として使用する場合も多いので、是非設置して頂きたい設備です。本来なら、「大迫り」「中迫り」「小迫り」の三つが欲しいところですが、ブリックホールと同じ程度の大きさの「大迫り」と「小迫り」の二つでも充分だと思います。旧公会堂の「小迫り」は小さ過ぎて、出演者の衣裳が挟まりそうで危険でしたので、「小迫り」と言えどもある程度の大きさは確保してください。

【回り舞台について】

素案の「奈落」の説明に「回り舞台」という言葉があったので、一縷の望みを繋ぐことが出来ました。

旧公会堂には、直径6間という小振りの回り舞台があったのですが、殆どの人がその存在さえ知らず、滅多に使用されませんでした。しかし使いようによってはかなり演出効果の高い設備で、例えば半回しして大迫りを反響板の前に移動して少し上げれば、オーケストラの演奏や多人敬での混声合唱等でも、簡単に屋台を組むことが出来ます。また4分の1回転して、大迫りと小迫りを舞台の上手や下手に移動すれば、面白い演出効果を生み出す事も出来ます。舞台設備のアドバイザーが常駐して、会場使用者に適切な助言をすれば、使用頻度を上げることも可能です。後付はほぼ不可能な設備ですから、直径7~8間の回り舞台の設置を是非お願いしたいと思います。九州には沢山のホールがありますが、回り舞台があるのは「博多座」と「ウエル戸畑」だけなので！

6	<p>長崎市民劇場の会員です。公会堂がなくなった後、長崎市民会館文化ホールで例会(舞台鑑賞)をしてきましたが、ようやく理想に近い800名規模のホールで劇団を迎えることが出来ると思うと感慨深いものがあります。嬉しいです。そうして専門家の方々の知恵を集めたホールになりそうなことに期待しています。必ず実現してもらいたいのは搬入搬出口は直接トラックからの出し入れができる形で、ドアも二重にしてもらえたら、今以上の環境で劇団を迎えることが出来ます。そこに集う私たちも含めて市民の宝となる交流の拠点となると思っています。素案を読んで嬉しく期待いっぱいです。</p>	<p>新たな文化施設の建設予定地は三角形の形状で、国道34号線側と桜町電停側とは約9mの高低差があるため、人や物の動線を考慮しながら施設配置を検討することとしており、搬入口が舞台と異なる階になる場合は、搬入用大型エレベーターを設置するなど、舞台へのスムーズな搬出入が可能な配置等について、敷地形状や前面道路の交通量などを勘案しながら、今後、設計段階で詳細を検討していくこととしています。</p>
7	<p>長崎市の新しい文化施設に期待しています。 施設の素案はとても立派なので、今後はその中を彩りのある文化でいっぱい出来るようなプランを作って、市民を導いてください。 市民、行政、教育、文化団体等々が、クロスオーバー出来るような集まりが出来ると、楽しそうだなと思います。 素案をまとめてくださって、ありがとうございました。</p>	<p>新たな文化施設は、誰もがいつでも立ち寄ることができ、芸術文化を通して様々な交流が生まれる場所となるよう検討を進めているところであり、具体的な内容については、今後策定する管理運営計画等において検討していくこととしています。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・素案に一つの要素として入っている市民会館文化ホールの廃止が早まるという報道に、大変驚かされました。老朽化は仕方ありませんが、また一つ、文化団体の選択肢が少なくなるのだな、と落胆しております。ブリックホール国際会議場の改修に期待しています。 ・日常的に練習が出来る会場が増えることを切望しています。長与町や時津町、諫早市や雲仙市にまで出向かないといけないので困っています。 ・新しい施設については、将来的に設備の更新がしていけるような予算組みを、長く継続して行ってほしいと思います。 ・市全体の文化が盛り上げるようなリーダーシップをとってください。各文化団体がそれぞれに頑張ってもなかなか広がりがなく、限界があります。少子化・高齢化の波もきています。 	<p>新たな文化施設については、今後策定する管理運営計画において、市内のホールの機能や規模、利用状況等を踏まえながら、新たな文化施設で必要とされる練習室等も含めた設備等の利便性や効率性などとともに、市民の皆さんが様々な芸術文化に身近に触れることができる施設となるよう検討していくこととしています。</p> <p>なお、ブリックホールの国際会議場については、利用者ニーズなどを考慮して音楽ホールに、会議室等については練習室等に改修することで、不足している機能を補うことを検討することとしています。</p>
9	<p>約30年ほど長崎市民吹奏楽団の指揮者をしております。ホールのキャパやコンセプトなど素案の中身には概ね賛同します。まず一点ご検討頂きたいのはホール完成後のことです。ホールを拠点とした文化発信をうたわれてますがこの点は如何お考えでしょう？いくら良質な器をこさえてもその器をどのように扱うかが最も肝要です。(ハードだけ立派でソフト面で何もしていない施設があまりに多い)ホールが主体となつての企画による催しがどれだけできるか？(この点ではアルカス佐世保はそれなりに成功しています)</p>	<p>新たな文化施設の整備と併せて、新たな文化施設のめざす姿である「芸術文化と平和を世界と共有する」を実現するため、「魅せる・触れる」「創る・発信する」「つながる・育む」の3つの役割を踏まえた具体的なソフト面などの事業計画等の詳細について、今後策定する管理運営計画において検討することとしています。</p>

	<p>それと最後にですが演者にとことん配慮したホールをのぞみます。道具の搬出入や楽屋と舞台の隣接度合いなどなど。 このホールで指揮するまでは絶対に続けてやろうと考えてます。</p>	
10	<p>長崎市民会館文化ホールの廃止の記事を読みました。寝耳に水。新しいホールができる、、というどの段階でこの話が出ていたのでしょうか??文化ホール廃止が前提の場合、新しいホールの役割も明らかに変わってきます。これを公にしないまま、新しいホールのワークショップなどが行われていたのでしたら、本当に信じられません。長崎の文化を担う中核的な役割、「ホール」を、どのようにお考えなのでしょう?長崎市は、文化に対する長期ビジョンが見えにくいと思っておりますが、さすがに市民として裏切られた気持ちです。文化ホールだけでなく、市民会館の他の施設の行方も気になります。</p>	<p>新たな文化施設を考える市民ワークショップは、新たな文化施設についてやりたいことや、やってほしいこと、どんな施設がほしいか、どうしたら皆が楽しめるかなど、新たな文化施設の役割や機能、諸室の構成などを議論していただき、広く意見を聴取するために開催したもので、文化振興審議会でいただいた意見も踏まえ、基本計画（素案）を策定したところです。</p> <p>また、市民会館文化ホールについては、建築後49年を経過しており設備の老朽化が著しく、現在のホールの性能を維持していくためには、大規模な設備の更新や施設の維持管理に多額の費用がかかることから、将来的な方向性について新たな文化施設の整備と並行して検討を行ってきたところであり、そのような状況の中、近隣に新たな文化施設が整備され、また、その規模が市民会館文化ホールと同規模の施設であること、現在、市民会館文化ホールで行われている催事等は、市内のその他の施設で実施できる見込みであることから、市民会館文化ホールのホール機能は、耐用年数65年経過（令和20年）前に廃止する方針としたところであり、廃止の時期や方法については、利用者の皆様にできる限り影響のないよう慎重に判断していく必要があったことから、将来的な方向性がある程度明確になった時点で方針を公表したものです。</p> <p>そのほか、市民会館文化ホールのホール以外の施設（リハーサル室、音楽室、会議室等）や市民会館内のその他の施設（中央公民館、市民体育館、男女共同参画推進センター）については、市民会館が令和20年に耐用年数65年満了となることから、今後の方向性について、早急に検討する必要があると考えています。</p> <p>新たな文化施設の検討にあたっては、市民会館文化ホールの耐用年数等も鑑み、ホール機能を将来的に廃止した場合も含め、複数のパターンによる施設利用シミュレーションを行ったところであり、その結果、将来的に市民会館文化ホールのホール機能を廃止しても、現在、市民会館文化ホールで行われている催事等は、新たな文化施設やブリックホール等のその他の市内ホールで実施可能であると見込まれたことから、市民会館文化ホールのホール機能の廃止については、現在計画している新たな文化施設の規模等への影響はないものと考えています。</p>

11	<p>・素案に「小規模な公演に対応できるよう多層構造とします」「小劇場機能を持ち公演会場として利用できる・・室」とある。多層構造は図りかねるが、メインホールの他に、少人数のグループや個人が気軽に手頃な価格で表現活動を通して地域貢献でき、市民が主体となれるような、小規模ホールの併設を是非実現してほしい。</p> <p>・半屋外の舞台など利用する側にとって多様なジャンルの公演形態が創造できる場を希望します。</p>	<p>市内には小規模の演劇公演等に対応できる規模と機能を持つ公演会場がないことから、新たな文化施設にリハーサル室機能と小劇場機能を合わせ持つ諸室を整備する予定です。</p> <p>また、日常的に人が集まるような広場の整備を検討しており、屋内と屋外をつなげるようなイベント開催利用を考慮した設備を計画しています。</p> <p>なお、具体的には、今後の設計段階で検討することとしています。</p>
12	<p>市民会館文化ホールの搬入口では大道具の出入りは非常に疲れます。昔の市公会堂のように舞台直結の仕様にして欲しいです。ぜひ！！</p>	<p>新たな文化施設の建設予定地は三角形の形状で、国道34号線側と桜町電停側とは約9mの高低差があるため、人や物の動線を考慮しながら施設配置を検討することとしており、搬入口が舞台と異なる階になる場合は、搬入用大型エレベーターを設置するなど、舞台へのスムーズな搬出入が可能な配置等について、敷地形状や前面道路の交通量などを勘案しながら、今後、設計段階で詳細を検討していくこととしています。</p>
13	<p>長崎から芸術文化を発信したいという意見には大賛成です。そのためには、長崎人の文化度を上げる必要があると思います。どうすれば、文化度が上がるのでしょうか。やはり、本物の芸術に多く触れること以外に方法はないのではないのでしょうか。今回、新しい劇場を作ることは大きなチャンスだと思います。</p> <p>そこで、まず、舞台のサイズを東京の芸術劇場やシアターコクーンなどと同じサイズにするのです。そうすると、東京で公演している舞台セットを変更することなく、長崎に持ってくることができます。そうなれば、東京と同じ空間で芝居を楽しむことができます。いろんな劇団が長崎で公演しやすくなるでしょう。また、長崎に居て、東京と同じ芝居が見られる機会が増えることで長崎の人たちも本物の芸術に触れる機会が増えます。それから、新しい長崎の観光の目玉になる可能性があります。というのも東京と同じ舞台が長崎で見られるなら、長崎で芝居を見たいと思う人が出てくると思うからです。「芝居の後は長崎観光を」「昼は長崎見物、夜は芝居観劇」などなど、実現する可能性はあると思います。</p> <p>ですから、舞台、舞台袖のサイズを芸術劇場などの東京で現在上演されている劇場の舞台と同じサイズにすることは是非実現してほしいと思います。</p> <p>次に、これからの芸術文化を支える若者たちに表現の場を与えることができるような劇場になればいいと思います。そこで提案ですが、宿泊できるスペースが作れないでしょうか。若い劇団員はお金がありません</p>	<p>新たな文化施設は、芸術性と専門性の高い公演に対応できるとともに、様々なジャンルにも対応できる十分な広さの舞台を設けるなど、多様な演目が可能なホールを整備することとし、客席数については、市内ホール全体の機能と規模のバランスを図り、稼働状況が平準化できるよう、また、どの席からも舞台が見えやすい満足度の高い鑑賞条件を備えたホールとするため1,000席程度としています。</p> <p>なお、具体的には、今後の設計や管理運営計画策定段階において、市内のホールの機能や規模、利用状況等を踏まえながら、新たな文化施設で必要とされる設備等の利便性や効率性などとともに、市民の皆さんが様々な芸術文化に身近に触れることができる施設となるよう検討していくこととしています。</p>

<p>ん。公演も2日間程度ですので、短期間の宿泊が無料、あるいは安くできれば、長崎に来て公演しやすくなると思います。日本中いや世界中から若い演劇人が長崎に来れば、長崎の若者にも刺激になります。新しいものが長崎から日本中、世界中に発信されるかもしれません。</p> <p>最後に、劇場のどこかに、公会堂の思い出の写真を展示してほしいと思います。公会堂は戦後の長崎の文化の発信地でした。公会堂50周年の時の写真展示では有名な役者さんの姿を通して、その時代の長崎を知ることができました。</p>	
<p>14 現在の音楽ホールの現状</p> <p>私はクラシック音楽の愛好家であり、アマチュアの演奏家でもあります。そこで基本的にPAを介さずに生の音での演奏となるクラシック音楽を聴くあるいは演奏するという立場で、現在の長崎市の音楽ホールの現状を考えてみます。</p> <p>2,002席の大ホール「ブリックホール」が2002年にオープンしました。しかしこのホールは、音響的にはもう一つと思われる。指揮者の井上道義氏は、同ホールで演奏した際に「なぜ音楽ホールの床に絨毯がしいてあるんだ！」と怒ったそうです。ゴージャスさをねらったのでしょうか、その広大な面積の赤い絨毯が音響に影響を及ぼしているのは私のような素人目にも明かです。残念ながらブリックホールは音楽専用ホールとはいえないと考えます。</p> <p>1,000席弱の市民会館文化ホールは、音響的にはさらに最悪なホールです。残響が少なく、楽器の響きは出せず、音がカスカスに聞こえてしまいます。先日の長崎大村室内合奏団の演奏も、もっと響きのよい会場ならば素晴らしかったらうと思いました。さらにこの会場の上には体育館が設置されており、ボールをつく「ドスンドスン」という音が、本番時に聞こえることもあったのです。</p> <p>しかし、2,000人もの集客を見込めない演奏会においては、ブリックホールは大きすぎるので、この市民会館しか選択肢がないような状況です。チトセピアのホールは音響が悪い上に、収容人員は少なくなります。ブリックホール内の国際会議場や平和会館ホール、メルカ築町のホールなどはもともと音楽ホールではありません。</p> <p>つまり、生の音を演奏する音楽専用のホールは、長崎市にはないということになるのです。どれもこれも、多目的に使えるホールに過ぎません。そこで音楽専用のホールとして期待しているのが、市役所跡に作られる「新しい文化施設」ということになります。</p> <p>素案から感じたこと</p>	<p>新たな文化施設は、芸術性と専門性の高い公演に対応できるとともに、様々なジャンルにも対応できる十分な広さの舞台を設けるなど、多様な演目が可能なホールを整備することとし、客席数については、市内ホール全体の機能と規模のバランスを図り、稼働状況が平準化できるよう、また、どの席からも舞台が見えやすい満足度の高い鑑賞条件を備えたホールとするため1,000席程度としています。</p> <p>なお、舞台構成などの具体的な内容については、今後の設計や管理運営計画策定段階において、市内のホールの機能や規模、利用状況等を踏まえながら、新たな文化施設で必要とされる設備等の利便性や効率性などとともに、市民の皆さんが様々な芸術文化に身近に触れることができる施設となるよう検討していくこととしています。</p>

「新しい文化施設」の素案を読んでもと、この「新しい文化施設」が「高い専門性・芸術性」を志向し、しかも1,000人ほどの中規模の収容数を狙っていることは、高く評価できます。まさに、長崎市にはそれがないからです。

問題は「高い専門性と芸術性」のあるホールをどうとらえ、実現していくかです。素案にある「観賞・発表機能」の部分はそのホールとなるわけですが、まず客席に関して「催しものに応じて残響時間を調整できるよう工夫」できるというのは大変すばらしいと思います。現代の音響技術を駆使して、ぜひ実現していただきたいと望みます。

舞台に関してですが、「サイドステージを脇花道としても利用し、多様な演出に対応可能」とあります。この「脇花道を兼ねるサイドステージ」が音響にどのような影響を及ぼすかがとても気になります。東京の「府中の森芸術劇場 どりーむホール」の紹介 (<http://www.fuchucpf.or.jp/theater/1000160/1000175.html>) では「音響面については、舞台脇花道の側壁が可動式となっており、クラシックコンサートなど音響反射板使用時に、効果的な音が拡がります。」との記述があります。脇花道を設置に際して、音響に影響を与えないような措置がなされているわけです。

長崎市の「新しい文化施設」でも脇花道（サイドステージ）を作るのなら、同様の措置を行い、音響への影響を最小限にさせていただくよう要望します。

「創作支援機能」に関しては、リハーサル室や小練習室がほとんどない長崎市の実態にあっておりよいと思います。また、小劇場として利用できるアイデアはとてもよいと思います。なぜなら、長崎市にはそのような小劇場はないのですから。

最後の機能「交流促進機能」ですが、これが少し気になります。面積的には「創作支援機能」部分と同等となっています。素案には「創作・イベントルームで催しを行う際に、観客の待機スペースとして利用できる空間」となっています。つまり「観賞・発表」のホールのエントランスは別にあると思われます。つまり、「交流促進」のスペースでの「ミニコンサートや展示利用等、市民活動で利用や情報ラウンジ」的使い方も重視していると思われます。この活動が十分に機能するかどうか心配です。

現在の同様な市民交流の場所の活用状況をリサーチする必要があると思います。また、このような交流の場は、ブリックホールのほか、長崎県庁、新長崎市役所、出島メッセなど、このところ新しく建設された場所でも、十分可能であるのではないのでしょうか。わざわざさらに作る必要性に疑問を感じます。

	<p>そこで、思い切ってこの「交流促進」のための面積を絞ってしまい、「新しい文化施設」を「観賞・発表」と「創作支援」の二つの機能のための施設と捉えてはどうか思うのです。</p> <p>多目的は無目的</p> <p>「新しい文化施設」での「観賞・発表」の対象となるものは、音楽・演劇等が中心になるかと考えられます。音楽のジャンルを考えると、その会場自体の作りが一番影響を与えるのが、生音による演奏です。ことにクラシック音楽においては、ホール自体が楽器であるとも言えます。会場と演奏者がその音楽の質を決定するのです。</p> <p>これまで長崎市は多くの市民に利活用してもらった眼目で、多目的なホールを作ってきました。それゆえに、ホールの作りそのものが演奏に影響を大きく与える音楽専用のホールが見逃されてきたと思います。マイクを通した音を使った音楽や講演の会場は、これまでの多目的ホールやこれから作られるスタジアムシティなどでも実現可能です。</p> <p>多目的ホールでは絶対に得られない音楽の響きをつくる楽器としてのホールが、長崎市には必要です。「新しい文化施設」の狙いを多目的に置かないで、音楽専用ホールとして作りませんか！</p> <p>多目的は無目的と言われるます。これ以上多目的を狙って、どれも中途半端になるようなホールが増えることだけはして欲しくないのです。音楽専用ホールとしての「新しい文化施設」のあり方を熱望します。</p>	
15	<p>2~3年前の県庁跡地利用文化施設頃から気になっていました。今は市役所跡地を文化施設にするということで、色々とお苦勞が多いと思いますが、意見を聞いてくださるとのこと感謝申し上げます。</p> <p>さて長崎の地にギャラリーが極端に少ないということは申し上げた通りです。なかなか利益が出ないというのが大きな理由でしょうが、例えば今はこくらやギャラリー、ギャラリー光風ぐらいでしょうか、一つは眼鏡屋さん、一つは昭和堂印刷屋さんが自分の社屋の一部を利用して開設しているぐらいで、最近できたのが風頭の公園近く上田清人氏風の大地美術館ギャラリーぐらいでしょうか、数年前にはませんギャラリーの後にギャラリーができたそうですが1日使用料3万円ほどと高く誰も使っていない様子でした。今はどうされているのか知りません。</p> <p>無くなったギャラリーははませんギャラリー(2室)、KTNギャラリー(ここは企画展、チャリティー展、地元の美術家展等前向きに取り組まれました。)、アトリエeMこれは個人のギャラリー、NHK長崎支局ロビーギャラリーとなっています。</p> <p>今長崎にはプロのアーティストになるくらいに頑張っている30~40</p>	<p>新たな文化施設基本構想では、必要な機能について「鑑賞・発表機能」として、芸術性と専門性の高い公演に対応でき、多彩な演目の公演が可能なメインホール、「創造支援機能」として、使いやすく市民の創造活動を支える創造支援エリア、「交流促進機能」として、芸術文化で交流と賑わいを生み出すエリアの3つの機能をとりとめました。</p> <p>市民の皆さんの芸術文化活動の発表や鑑賞のほか、ホールで公演等がない日にも、エントランスロビーでミニコンサートや展示などを行うことで、誰もがいつでも立ち寄ることができ、芸術文化を通して様々な交流が生まれる場所となるよう検討を進めています。</p> <p>なお、事業計画などの具体的な運営計画等については、今後策定する管理運営計画において検討を進めていくこととしています。</p>

代、50～60代の人等、九州での西日本美術展、青木繁記念大賞展、熊本ビエンナーレ展、別府現代展、枕崎国際芸術賞展等コンクール展や、公募団体展などで実績を上げ賞を受賞するなど頑張っている人が輩出してきました。

断っておきたいのは、どうしても制作をするような人々は一人籠って作品に取り掛かることがとても必要です。そのせいで人の中に入って人間関係を築いたり、人前に出て意見を言う人が少ないのはどうしてもあります。この度ギャラリーが出来ることは長崎の美術の世界に大きな波を作り、これからの未来への決定的な流れにつながり、10年後～20年後の大きな変化が遂げられるチャンスだと確信します。

文化施設の内容を大きく舞台芸術とアート（美術造形）の2本に据えたらどうでしょうか。10年ほど前になるのでしょうか、市の図書館が建設計画された時、美術館を図書館の上の階に作るという案が提示されたそうですが、実現されなかったのはとても残念なことです。

しかし美術館というのは大きな予算が必要で、今の時代なかなか社会的にも経済的にも不安定な時代にそこまで予算を使ってよいのだろうかという疑問もわきます。

それよりももっと少なく、10分の1いや数10分の1の予算で、同じくらいの効果を出せることはできないのかと考えます。美術館のように作品の収集や収蔵はなしにする。ギャラリー3室の運営と企画展それと事務室を作りそれを拠点としてアートセンターとして運営していく。

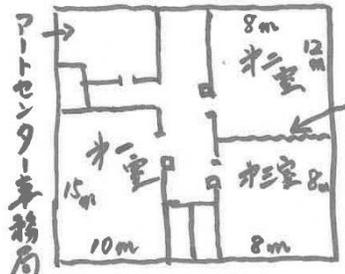
ギャラリーについて

3室必要と考えるのは、3人の個展の相乗効果やグループ展、企画展など使用目的に合わせて幅ができる。

第1室：10m×15mほどの150㎡で壁面高は3m～3m50cm 壁面の長さは凡そ50m（中央に可動展示パネル設置検討必要）

第2室：8m×12mほどの96㎡壁面高は同上、壁面の長さは約40m（中央可動展示パネル設置検討が必要）

第3室：8m×8m程度 壁面高は同じで、広さは64㎡壁面の長さは32m



(ラフスケッチでイメージしてみました。)

第2室、第3室は可動展示パネルで仕切られて使い方により1室としてより広いスペースでグループ展など開催できる。8m×20m-160の広さとなり56m程の壁面の長さとなる。

通路や人が休むような空間にギャラリーのように作品を展示することはそれなりの効果はあるでしょうが、ギャラリー専用として窓のない空間で、受付や控室、梱包材量などを保管する物置空間が備わったものは、全然別のものであるといえます。ギャラリー専用の空間を是非作ってほしいと切に望みます。

運用面について

大切なのは今を生きて活動している地元の人々を支援することが大切で、そこに住む人が幸せになったり喜んだり、生き生きと暮らせることが地域の活性や発展に一番重要な条件だと思います。有名だったり作品の価値が定まったすでに亡くなった人の作品を集めたり顕彰して歴史的な位置付けをすることは大切なことですが、それと同じくらい、いやそれよりも今生きて新しい歴史を創り出している人を支援することがどんなに大切かと思います。現状の長崎では何もありません、皆無です。きいたこともない、ただ驚きです。

目的を一人一人の美術家たちの応援というか支援をする。(個展とかグループ展の開催を活発化させる取り組み) ギャラリー出品者を中心として長崎の美術家などの活動を記録としてファイルに残していく。

アートフェスティバルを年1回か隔年に開催する。ブリックホールギャラリー、市民会館の地下ホール(以前ここは展示ホールとして使われていたが壁面や照明などを改修すると便利で使われる会場になると思われる。)や 県美術館で市文化振興会主催のアートフェスティバル展が

開催されているので、それらとともに幾つかの会場を連携し同じ期間に一つの催しとして開催する。

企画展を開催する。頑張っている人やグループなどの展覧会を開催する。まずは県内の人を対象にするが、数年やって落ち着いてきたら県外からの人も招待できるようにする。目安は九州内で活動する人で、他の県の市の美術館やアートセンターなどと連絡を取り合い、招待とか共通の企画展を交互に開催することも考える。そうすると県外からの観覧者も来るほどの展覧会を目指すこともできるのではないかと考える。

現代美術を対象とすることに重点をおくが、勿論どんな作品の展示も可とするのは当然である。現代美術の境界や定義はあいまいなところが多く、そして一般的に評判が悪い、コンセプチュアルアートなどもここにくぐられたりするのですが難しく結構厄介です。それでもこれが時代の流れの中で主流になってくると思われるので、少しずつでも、楽しくてビビットな部分もあり、また自然で身近なところを表現していてアートとしてすんなり受け入れられる部分も沢山あるんだと理解を深める活動に取り組む。

鑑賞教育プログラムに取り組む

作品に接するとき、先に説明をしてからそして作品を見てもらって、納得し理解したつもりになっているというのがこれまでの鑑賞でした。指導者側の意図した一方的な見方でそれが正解ということになります。これは今でも行われています。そうではなく説明はなく知識もない状態で作品の前に立ち、自分の目で見たことで何を感じるか、何を思うか、好きなのところとか嫌いなのところ、それはどうしてそう思うのかや何が表現されて作者は何を言いたいのかなどを自分で考える。一人一人違って当たり前、それを発表したり人の感じたことなどを聞くことで、感じたことや思ったことを意識として定着させることが狙いである。そして担当者の視点や作品への思いを聞き、最後に作者の考えとか制作年代、制作素材を説明してもらう方法です。近くの小学校や中学校から初めて高校生までを考える。

施設内にアトリエを作れないか、これは運営がなかなか難しく検討がさらに必要だが昼間は大人を対象として、午後から夕刻までと土曜、日曜は子供を対象として、制作内容は市中の教室でやっていることと重ならないことが大切で、今思いつくのはシルクスクリーンや石版画でプレス機を使うので何処もやっていないと思われる。モデルを使つてのク

	<p>ロッキー会、子供に対しては造形遊びで面白いのがいろいろあります。</p> <p>毎日のようになるとオープンして、ここに行けば何かやっているという人の流れを作ることが大切（例えば浜センアートギャラリーは開催利用する人が多く、浜プラで時間に余裕ができた人が通りがかりに立ち寄ることがふつうにみられました。）利用年間計画表で空きが出ないように工夫して個展やグループ展、企画展などを入れる。</p> <p>事務局を設置して、いろいろな情報として美術展の開催案内や個展やグループ展の開催方法の情報や市内の教室の案内などの活動を検討したい。</p> <p>使用料を安く抑えることは大切で一日で5,000円以下であることが望ましい。とにかくいろんな人に使ってもらうことが第一だと考えます。</p>	
16	<p>県美術館にはない個人又は団体が利用できるような少し小さな展示室があれば長崎市の芸術文化の発展に寄与できるのではないかと思います。以前から言われている市の美術館設立要請とも合致します。</p>	<p>新たな文化施設では、リハーサル室機能や小劇場機能をもつ創作・イベントルームにおいて、小規模の演劇公演や作品等の展示なども含むイベント等にも幅広く対応できるよう計画しています。</p> <p>また、エントランスロビーは、ミニコンサートや展示利用等、市民活動で利用できる広さや設備を整備することで、市民の芸術文化活動を支え、活性化が図られるよう検討していくこととしています。</p>
17	<p>公会堂が建っていた場所に新しい市役所が建ちました。長い間、公会堂と市民会館でたくさんの劇団のお芝居を観て、楽しむことができました。旧市役所の跡地に新たな文化施設ができるのをとても楽しみにしています。</p> <p>そこで是非お願いしたいことがあります。舞台を創るためには、事前・事後の搬入・搬出作業が必要です。長崎市公会堂の場合は、トラックから直接舞台へ搬入・搬出作業ができました。長崎市民会館の場合は、トラックから荷をおろし、さらに急傾斜の搬入・搬出口を通らなければならない大変な作業です。</p> <p>今回建てられる新たな文化施設は、トラックから直接舞台への搬入・搬出ができるような設計にしていきたいと希望します。</p>	<p>新たな文化施設の建設予定地は三角形の形状で、国道34号線側と桜町電停側とは約9mの高低差があるため、人や物の動線を考慮しながら施設配置を検討することとしており、搬入口が舞台と異なる階になる場合は、搬入用大型エレベーターを設置するなど、舞台へのスムーズな搬出入が可能な配置等について、敷地形状や前面道路の交通量などを勘案しながら、今後、設計段階で詳細を検討していくこととしています。</p>
18	<p>表千家同門会長長崎県支部も、長年市民会館の文化ホールで各種講演会・市民講座等で利用させて頂いており、今後も新しい文化ホールは利用したいと願っております。</p> <p>つきましては、以上の行事におきまして、茶道の講習・呈茶を行っており、それには給水・給湯・流し台等の設備が必要です。水回りのバックヤードの環境整備と充実を希望いたします。ご検討宜しくお願い</p>	<p>新たな文化施設で必要とされる基本的な設備については、今後、設計を行う中で、利便性や効率性も勘案しながら具体的な検討を進めていくこととしています。</p>

	い申し上げます。	
19	<p>文化ホールの継続を前提とした素案のパブコメを開始した後に、審議会で文化ホール廃止の方針を説明するという市、担当者による手続きは、第一に、市民に対する背信行為です。長崎市よかまちづくり基本条例の理念や基本原則の市民との共有や遵守に背くふるまいはあってはならないと考えます。第二に、所与の条件が変わるため、パブリック・コメントの対象である素案には、市民の意見を求める素材としての価値はありません。</p> <p>以上から、本素案によるパブリック・コメントへの意見も踏まえて、現在の条件の下で改めて市民ワークショップや審議会を実施し、再度のパブリック・コメントを実施してください。小手先の修正でお茶を濁すことのないよう、お願いします。</p> <p>今回の手続きは、文化施設にかかる事案であることはもちろん、長崎市政と市民との溝を更に拡大する事態です。市民力、職員力や協働を所管する部署や附属機関による詳細な検証、改善策の検討、公表と実施を強く求めます。</p>	<p>市民会館文化ホールについては、建築後49年を経過しており設備の老朽化が著しく、現在のホールの性能を維持していくためには、大規模な設備の更新や施設の維持管理に多額の費用がかかることから、将来的な方向性について新たな文化施設の整備と並行して検討を行ってきたところであり、そのような状況の中、近隣に新たな文化施設が整備され、また、その規模が市民会館文化ホールと同規模の施設であること、現在、市民会館文化ホールで行われている催事等は、市内のその他の施設で実施できる見込みであることから、市民会館文化ホールのホール機能は、耐用年数65年経過（令和20年）前に廃止する方針としたところであり、廃止の時期や方法については、利用者の皆様にできる限り影響のないよう慎重に判断していく必要があったことから、将来的な方向性がある程度明確になった時点で方針を公表したものです。</p> <p>新たな文化施設の検討にあたっては、市民会館文化ホールの耐用年数等も鑑み、ホール機能を将来的に廃止した場合も含め、複数のパターンによる施設利用シミュレーションを行ったところであり、その結果、将来的に市民会館文化ホールのホール機能を廃止しても、現在、市民会館文化ホールで行われている催事等は、新たな文化施設やブリックホール等のその他の市内ホールで実施可能であると見込まれたことから、市民会館文化ホールのホール機能の廃止については、現在計画している新たな文化施設の規模等への影響はないものと考えています。</p>
20	<p>素案は審議会やワークショップの意見を尊重して作成されていると思う。日頃、他市町の文化施設利用してみて感じる事、それは一歴史ある国際文化都市・長崎市には住民目線で住民生活に未着した「気軽に集い利用できる小規模文化施設」が圧倒的に不足、貧弱だという事です。素案P12—小規模練習室の充実を切に希望します。昨今、施設利用が「事業者委託方式」に変わる中で、その運営費や施設維持管理予算が減少されているのではと危惧しています（壊れても修理しない。清掃整備が行き届いてない）。P21-6①～⑤、のこれからの具体化に市民の願いが具体化されることを切望しますが、新施設の建設後も前記の問題は引き続き存在すると思います。P22-7をどう展開するかがカギだと思います。</p>	<p>新たな文化施設は、誰もがいつでも立ち寄ることができ、芸術文化を通して様々な交流が生まれる場所となるよう、検討を進めているところです。</p> <p>また、新たな文化施設の管理運営の方法や施設管理計画等の詳細については、今後策定する管理運営計画において、広くご意見をお聴きしながら、検討を進めていくこととしています。</p>
21	<p>変形の立地条件なので難しい事も多々あると思います。</p> <p>私は5回のワークショップに参加いたしました。和・洋を問わず本格的な公演が出来る小劇場を私共は当初から変る事なく要望して参</p>	<p>新たな文化施設は、芸術性と専門性の高い公演に対応でき、多様な演目が可能なホールを整備することとし、客席数については、市内ホール全体の機能と規模のバランスを図り、稼働状況が平準化できるよう、また、どの席からも舞台が</p>

<p>りました。此度の劇場の中心は本格的な公演が出来る舞台であり、舞台を中心として、次の要望を整えて行かなければいけないと思います。</p> <p>アレもコレもと主役が多いと、又々今迄の様な中途半端な多目的ホールになる事になります。</p> <p>此度、意見提出の機会を得ましたのでホール建設の活動が始まった平成24年前後の私共のコメントを添付したいと思います。</p> <p>(以下)</p> <p>公会堂存続がどうしても不可能ならば今度は小さくてもよいから日本伝統文化のひとつである本物の歌舞伎公演が出来る劇場を造っていただきたいと直接申し上げました。昨今の歌舞伎座では古典ばかりでなく、ワンピース、風の谷のナウシカ等々、又、ミュージカル、オペラ等も上演されています。建築費がかかっても本物の興行が増えらると、採算は取れると思います。とも、申し上げました。その後、度々会議が催されている様ですが私たち、文化に携る者は終始本格的な舞台をと望んで居ります。</p>	<p>見えやすい満足度の高い鑑賞条件を備えたホールとするため1,000席程度としています。</p> <p>また、今後策定する管理運営計画において、市内のホールの機能や規模、利用状況等を踏まえながら、新たな文化施設で必要とされる設備等の利便性や効率性などとともに、市民の皆さんが様々な芸術文化に身近に触れることができる施設となるよう検討していくこととしています。</p>
<p>22 ・長崎市の人口分布を考慮した際、どの年代の人が主に新たな文化施設を利用する予測なのか？長崎市が出す、「長崎市新たな文化施設基本計画(素案)」を一読したが、使用目的や規模などの施設的な概要は把握できるが、その施設を利用する人が”どのような人”なのか見えてこなかった。</p> <p>長崎県では過度な人口減少が進む中で、限られた市民のどの層(高齢者か若者か、中年層かなど)が主に利用するのか。やはり中長期的に建設予定の文化施設を維持するためには、持続的な利用者からの安定的な使用料が必要なのだから(払えない分は地方自治体で補う、つまり我々の税金から)、どのような利用者がターゲット(ペルソナ)なのか明確にした上で、建設する必要がある。赤字的な経営だと結局文化の理念や施設の概要を重視するのも大事だが、市民を一番に配慮したロジックや数字的なデータを考慮した上で、計画することが先決だと思う。</p> <p>・新たな文化施設を建設するにあたり、大手の企業に依頼することが予想されるが(ブリックホール建設時には日本建設)、それに応じた県内での内需はどれくらい予想されるか？今回の建設で県内企業に依頼することで、雇用や県内の経済を多少なりとも活性化させることが出来ると思うが、市の運営として、その効果は期待できるものなのか？</p> <p>・「長崎市新たな文化施設基本計画(素案)」のp11に関して、今長崎</p>	<p>新たな文化施設は、年齢等に関係なく、誰もが芸術文化に等しく触れることができ、気軽に訪れ、安心して利用できる施設となるよう整備を進めていくこととしています。</p> <p>また、芸術性と専門性の高い公演に対応でき、多様な演目が可能なホールを整備することとし、客席数については、市内ホール全体の機能と規模のバランスを図り、稼働状況が平準化できるよう、また、どの席からも舞台が見えやすい満足度の高い鑑賞条件を備えたホールとするため1,000席程度としています。</p> <p>なお、新たな文化施設の管理運営の方法や施設管理計画等の詳細については、今後策定する管理運営計画において、広くご意見をお聴きしながら、検討を進めていくこととしています。</p>

	にある施設を再活用して“芸術性が高く、中規模程度の施設”の実現は不可能なのか？	
23	<p>○小規模ホール クラシックにも対応できる反響板などは、必ず対応できるようにしてほしい。</p> <p>○練習室 練習室の数を多くしてほしい。 高齢者、障がいのある人がホールの座席までスムーズに移動できる動線を作してほしい。</p>	<p>新たな文化施設に整備する諸室の詳細は、今後策定する管理運営計画において、市内のホールの機能や規模、利用状況等を踏まえながら、新たな文化施設で必要とされる設備等の利便性や効率性などとともに、市民の皆さんが様々な芸術文化に身近に触れることができる施設となるよう検討していくこととしています。</p> <p>また、すべての人に開かれた施設とするため、ユニバーサルデザインや、近隣施設との連結を含めたバリアフリーなどに対応するとともに、誰もが芸術文化に等しく触れることができ、気軽に訪れ、安心して利用できる施設となるよう、今後、設計段階で詳細を検討していくこととしています。</p>
24	スタジアムシティプロジェクトに続き新しくホールを建設し、都市を大きくしていくことに関しては賛成ですが、それにより他県や他国からの観光客に対応して行くことに対して懸念を感じています。電子決済が慣れないご老人やタトゥーに嫌悪感を抱く長崎県民の方々にとって居心地の悪い長崎にはならないかと思いました。	新たな文化施設は、市民が芸術文化活動を行うための機能を備えるほか、ホールが利用されていない時にも、芸術文化を通して市民や観光客の交流の場となり、市民の主体的な交流活動のほか、多様なイベントが開催される施設になるよう検討していくこととしています。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも、この計画にはこれまでのワークショップで出された市民の意見が汲み取られているのか、議論した結果としての計画なのかを率直に疑問に感じました。ワークショップに参加したわけではないので、その時の様子は分かりませんが記録を見る限り、何がどうなってこの計画になったのかよく分かりませんでした。これでは、市民の皆さんが新しい文化施設が必要だ！と納得して頂けないと考えます。 ・新たな文化施設ができることによる、周囲への影響はどのように考えられているのか教えていただきたいです。例えば新しい文化施設にはこれまで不足していたと言われていた練習室（リハーサル室）が設けられるとの記載があります。これに関して、新しくできることでブリックホールのリハーサル室の利用率が下がり収益が減少する、ブリックホールの運営にも影響を与えることが予測できます。リハーサル室に限らず、新しい文化施設ができることで、少なからず他の施設も影響を受けるのではと考えた次第です。 	<p>新たな文化施設を考える市民ワークショップは、新たな文化施設でやりたいことや、してほしいこと、どんな施設がほしいか、どうしたら皆が楽しめるかなど、新たな文化施設の役割や機能、諸室の構成などを議論していただき、広く意見を聴取するために開催したもので、文化振興審議会でもいただいた意見も踏まえ、基本計画（素案）を策定したところです。</p> <p>市内のホールに併設された練習室のうち、防音機能を備えた練習室はブリックホールのみであり、稼働状況が高い状態にあります。少人数での利用ニーズがあるものの、市内には小規模の練習室が少ないのが現状であるため、新たな文化施設に小規模の練習ができる部屋を整備することで、利用者のニーズに対応し、それぞれの施設の規模や機能に合わせた利用が可能になると考えています。</p> <p>このように新たな文化施設基本計画の策定にあたっては、市内ホール全体の機能と規模のバランスを図り、稼働状況が平準化できるよう検討してきたところです。</p>

26	<p>この計画（素案）は、長崎市民会館の文化ホールの廃止が決まる前に策定され、パブリックコメントの募集が始まっていますが、市民会館文化ホールの廃止を考慮することなく、従来の素案のままパブリックコメントにかけることに問題はないのでしょうか。1/30に開催された令和4年度第4回文化振興審議会の議事録によれば、市民会館文化ホールの今後の方向性について、老朽化と新たな文化施設ホールとの機能の重複から、廃止する方針であると記載がありました。文化活動を行なっている者ではないため、市民会館の文化ホールのもつ機能が新たな文化施設ホールで本当に代替可能なのかわかりませんが、少なくとも市民会館の文化ホールの有無によって、新たな文化施設ホールに何が必要なのか等、この計画の策定にかかる議論は異なるものになっていたのではないかと思います。長崎市における文化施設の現状と全体像を把握したうえで、この計画を策定していただきたいです。</p>	<p>市民会館文化ホールについては、建築後49年を経過しており設備の老朽化が著しく、現在のホールの性能を維持していくためには、大規模な設備の更新や施設の維持管理に多額の費用がかかることから、将来的な方向性について新たな文化施設の整備と並行して検討を行ってきたところであり、そのような状況の中、近隣に新たな文化施設が整備され、また、その規模が市民会館文化ホールと同規模の施設であること、現在、市民会館文化ホールで行われている催事等は、市内のその他の施設で実施できる見込みであることから、市民会館文化ホールのホール機能は、耐用年数65年経過（令和20年）前に廃止する方針としたところであり、廃止の時期や方法については、利用者の皆様にできる限り影響のないよう慎重に判断していく必要があったことから、将来的な方向性がある程度明確になった時点で方針を公表したものです。</p> <p>新たな文化施設の検討にあたっては、市民会館文化ホールの耐用年数等も鑑み、ホール機能を将来的に廃止した場合も含め、複数のパターンによる施設利用シミュレーションを行ったところであり、その結果、将来的に市民会館文化ホールのホール機能を廃止しても、現在、市民会館文化ホールで行われている催事等は、新たな文化施設やブリックホール等のその他の市内ホールで実施可能であると見込まれたことから、市民会館文化ホールのホール機能の廃止については、現在計画している新たな文化施設の規模等への影響はないものと考えています。</p>
27	<p>1. 当該計画に明文化されていないものの、このような長崎市の箱物優先のまちづくりによる長崎市民の文化振興ではなく、ホール等の施設が十分に備わっていることから、やり方や手法について、手を替え品を替え文化振興を図るべきではないかと思いますが、具体的な文化振興の取り組みはどのようなものを行っているのでしょうか？すべての可能性を検討、実践したうえでの新しい文化施設の建設に至ったのでしょうか？</p> <p>2. p.5について、新しい文化施設が「芸術文化と平和を世界と共有する」場所であるとするならば、市役所跡地の敷地面積で事足りるのでしょうか？出島メッセ長崎が完成したこの長崎市において、キャパとしては出島メッセ長崎が役割として不足はなく、機能が学術的なものなどによっているものであれ、追加の機材を購入することなどで十分対応できると考えましたが、どのような形で世界と共有できる場所として考えているのでしょうか？</p>	<p>長崎市の文化振興施策については、第五次総合計画における「芸術文化に触れる機会の創出」及び「市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図る」という取組方針に基づき、事業を展開しているところです。新たな文化施設についても、市民が様々な芸術文化に身近に触れる機会の創出等の取組みの一つとして整備するものです。</p> <p>出島メッセ長崎については、交流人口の拡大、経済の活性化を設置目的としており、国際・全国規模の学会、大会、展示会が開催されています。一方で、新たな文化施設は、舞台機構を常設し、芸術性と専門性の高い芸術文化公演等を行うことができるよう計画しています。</p> <p>また、新たな文化施設のめざす姿である「芸術文化と平和を世界と共有する」ことを具現化するため、今後策定する管理運営計画において、芸術文化に触れる機会を創出するための新たな文化施設の役割等についても検討することとしています。</p>

3. p. 9について、新しい文化施設の役割として、「まちなみや景観との調和に配慮するとともに、」とありますが、本当に配慮するのでしょうか？また、現段階の完成図等がありますか？昨今の長崎市をみていると、高層マンションや長崎市新庁舎など、長崎らしい古い街並みをなくす、邪魔をする傾向にあるようにみえています。

4. p. 11の市内ホールの機能と規模の配置イメージについて、市民会館文化ホールを基準に配置されているようにみえますが、新しい文化施設は、市民会館の文化ホールとの共存が前提で考えられているのでしょうか？
市民会館の文化ホールについて、先日の審議会にて、廃止する方針であることが長崎市の声明として出ましたが、共存前提の計画であれば、市民会館の文化ホールに変わる新しいホールの建設をしようと考えているのでしょうか？

5. p. 13について、創造支援機能として位置付けられている「創作・イベントルーム（リハーサル室・小劇場）」、「創作活動室（練習室・ミーティング室）」がありますが、これはどのような点が創造支援機能としての役割を果たすのでしょうか？素案をみているだけでは、（ ）内の機能のみで、創造支援の一端がみえません。

新たな文化施設の建設予定地は、歴史的な文化や伝統に培われた地域であり、今後、基本設計・実施設計へと進むこととなりますので、まちなみや景観との調和を踏まえ、詳細を検討していくこととしています。

新たな文化施設は、誰もが気軽に訪れることができ、芸術文化を通して様々な交流が生まれる場所となるよう検討を進めているところです。

また、今後策定する管理運営計画において、市内のホールの機能や規模、利用状況等を踏まえながら、新たな文化施設で必要とされる設備等の利便性や効率性などとともに、市民の皆さんが様々な芸術文化に身近に触れることができる施設となるよう検討していくこととしています。

一方、市民会館文化ホールについては、建築後49年を経過しており設備の老朽化が著しく、現在のホールの性能を維持していくためには、大規模な設備の更新や施設の維持管理に多額の費用がかかることから、将来的な方向性について新たな文化施設の整備と並行して検討を行ってきたところであり、そのような状況の中、近隣に新たな文化施設が整備され、また、その規模が市民会館文化ホールと同規模の施設であること、現在、市民会館文化ホールで行われている催事等は、市内のその他の施設で実施できる見込みであることから、市民会館文化ホールのホール機能は、耐用年数65年経過（令和20年）前に廃止する方針としたところであり、廃止の時期や方法については、利用者の皆様にできる限り影響のないよう慎重に判断していく必要があったことから、将来的な方向性がある程度明確になった時点で方針を公表したものです。

新たな文化施設の検討にあたっては、市民会館文化ホールの耐用年数等も鑑み、ホール機能を将来的に廃止した場合も含め、複数のパターンによる施設利用シミュレーションを行ったところであり、その結果、将来的に市民会館文化ホールのホール機能を廃止しても、現在、市民会館文化ホールで行われている催事等は、新たな文化施設やブリックホール等のその他の市内ホールで実施可能であると見込まれたことから、市民会館文化ホールのホール機能の廃止については、現在計画している新たな文化施設の規模等への影響はないものと考えています。

創造支援機能のうち創作活動室は、市内に不足している小規模な練習室を整備し、市民の日常的な芸術文化に係る創造活動の促進を図ることとしており、創作・イベントルームは市民の発表やリハーサルのほか、小規模な演劇公演にも対応可能であり、さらに様々なイベントの開催にも対応可能とすることで、市民の芸術文化に係る創造活動の活性化を目指しているところで

		す。諸室の運用等の詳細については、今後策定する管理運営計画において検討していくこととしています。
--	--	--